

繪畫の樂み

(羽仁氏の書によつて)

大下藤次郎

繪畫を家庭の娛樂に加へて頂きたいといふとは、早くから申上たいと思つて居りながら、我田引水の嫌ひがありますので差し控へておましたが、御望とあらば有體に私の考を申上ませう。

山川草木その他の自然界は天然の繪畫です。我々は大いなる繪畫の中に棲息してゐるのであります。我々にこの大きな自然の繪畫を見る目がなければその美しさが充分に解りません。それでその目を養ふ方法は種々ありませうが、繪畫を學ぶと申すことは髓にその中の最も重なる一つであらうと存じます。

繪畫は音樂と同じやうに、獨りて樂しむとが出来て、そしてまた多人數で樂むとの出来るものでありますから、家庭の娛樂としては尤も適當であります。殊に其の樂みの範圍が極めて廣く、假令ば旅行先から送つた一片の繪葉書が家に残つてゐる家族を慰め、且それが永久に保存されて、いつ迄もそのをりの紀念になると申すやうに清くして深い樂みを味ふとが出来ます。またこれを實益の方から申すなら、繪を描くと觀察力が非常に鋭敏になりますし、天然に對する同情も深くなりますゆゑ、自ら無暗に花を手折るとか、小鳥や蟲を無慈悲に扱ふとか申すやうな殘酷などに遠ざかり、知らず／＼我々の品性を高尚にするのとがどれ程であるか知れません。そして家族の一人に繪畫の素養がありますと、家庭全體の趣味を高めるとが出来ます。繪を描くと、自然色の配合や物の位置按排等に對する注意が深くなりますゆゑ、服裝とか室内粧飾とか申すへにも、實際多くの利益を受けるのでございます。此點に於ては、殊に御婦人方に繪畫を御學びになる事を御勧めしたいと思ひます。

以上は繪畫を學ぶ上に於て、何人の上にも來るべき利益の重なるものであります。更に人々によつて豫想外の利益を得た實例が、私の只今茲に擧げ得る限りの範圍に於ても隨分數々御座います。ある大酒家が、繪をはじめてからは、前夜に大酒をすると翌日思ふやうに畫がかけなくなるので、知らず／＼酒を過さな

くなつたといふ人もあり、また或會社員は、年來の夜ふかし朝寝坊であつたのが、不圖したとから繪をはじめてそれが段々面白くなり、出勤前に寫生にゆくといふ樂みの爲めに朝起きをした、朝起きをしていつにない運動をするために夜は早く眠くなる、そのやうなとていつの間にか宵寝の早起になつて仕舞ひました。また前の人ば、同じ原因によつて永年の胃病が全快したといひ、秋から冬になると極まつて風邪を引く人が、朝夕の寫生あるきのために外氣の刺撃に馴れて、全くその習慣を脱したといふこと、わるい遊びに耽つてゐた人が、繪を習ひはじめで始終寫生に出てゆくのて、よくない友達が折角やつて來ても留守勝てはあり、夜は疲れるので早く寝て仕舞ふため、こちらからもあまり前の友達を尋ねてゆかぬと申やうのとやら、追々疎遠になつて、此節では全くやめて仕舞ふたと申を、その妻君が大層喜んで話して居られたやうのとも御座います。チト賣藥の能書じみてゐますが、實際のとて作り話ではありません。殊に繪畫は子供を教育してゆく上に、種々の場合に其必要があるとは申す迄もありません。

さて、このやうに娛樂にもなり實益もある繪畫を、世人はナゼ打捨て、置かと申に、繪を習ふといふとは餘程六つかしい仕事だと思つてゐるから、御座いませう。それは専門家になつて立派な繪を描くのにはなにか、むづかしい、生涯を擧げてその研究に委れる外に、天才の必要もある。併し自分の娛樂のために繪を描いて見ようといふのは、決して入り難いものでも困難なものでもないのです。殊に西洋畫は規則立つて勉強が出来るので一層たやすいと思ひます。初學の人ば、とかく最初から立派なものを描く積りで、それが巧くゆかぬといつて失望するのであります。それは無理な話です。初めは一本の鉛筆と一枚の紙とで、手近のものを何でも寫して見るがよろしい。臨本を模すもよく、一寸した花や小道具などを寫生するのもよいでせう。そして段々形がとれ調子が腹に入つてから彩色に移るのであります。面白味はこの頃から追々出て來るので御座います。それで繪を習ふのは、場處もいらす、材料の費用も至つて僅か、濟みますから、繪を習ふと思ひ立つてゐる方は、今日只今からでも始めることが出來ます。やつて見たい心はあつても手を下すのを怠つてゐる人は、一生涯この高尚な樂みを知らずに終るので御座います。(家庭の友、娛樂號より)